

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

第 33 号

平成11年11月15日発行

編 集 ・ 発 行

茨木市国際親善都市協会



キャンプ場での茨木市キャンプ交流訪問団

目次

- サマー イン ミネアポリス P2・3
- '99USA杯で大活躍 P4・5
- ミネソタ州日本語村「森の池」だより P6
- 安慶市と水泳交流、JICA研修員との楽しい1日 P7
- 青少年活動室、姉妹都市活動室、寄附、会員募集 P8

Summer in



表敬訪問を終えて



アーチェリーに挑戦



カヌーで出発



ハイ、チーズ!

心のポケットは思い出でいっぱい

あまりにも青く高く澄んだ空、輝く摩天楼、心休まる豊かな緑、空色の水をたたえ静かに横たわる湖の数々。自然と街が見事に共存しているメトロポリス。茨木市の姉妹都市・ミネアポリス市はそんな素晴らしい街です。

今年7月22日から8月3日までの間、茨木市からキャンプ交流訪問団として、23人中・高校生がミネアポリス市を訪れ、ホームステイやキャンプを通じ、数えきれないほどの素晴らしい思い出で、心のポケットをいっぱいにしてきました。

期待と興奮を胸に、生まれて初めてミネアポリス市の土を踏んだ団員達は空港でレインビル文化協会会長をはじめ役員の方々の温かい出迎えを受けまし

た。市内観光、表敬訪問を終えたあと、さあ、ホームステイ家庭との対面。最初は緊張気味だった団員達も、ホストファミリーの優しい言葉と笑顔にふれ、不安はみるみる期待に変わっていきました。ホストファミリーとの楽しい日々は、普通の旅では決して味わうことのできない貴重な体験でした。5日目、いよいよキャンプです。今回のロングレイクキャンプ場は雄大な森の中の美しい湖のほとりにあり、設備の整った素晴らしい施設でした。最初は「何を食べたら…」と疑いたくなるくらい体格の良いアメリカの子ども達にとまどっていた団員達もカヌーやアーチェリーなどを一緒に楽しむうちに本当に仲良くなりました。多くのアメリカの子ども達やカウンセラーが日本語で「おはよう」と挨拶している光景に接して、団員達は立派に訪問団としての役割を果たせたと思います。(随員職員 小林 岩夫)

Minneapolis



楽しいおしゃべり



さようならパーティー

スケジュール

- 7月22日(木) 茨木市出発(NW24便)
ミネアポリス市到着
表敬訪問
ホームステイ家庭へ
- 7月23日(金) ホームステイ家庭との交流
- 7月24日(土) ホームステイ家庭との交流
- 7月25日(日) キャンプ活動
- 〃
- 7月30日(土) ホームステイ家庭へ
- 7月31日(日) さようならパーティー
- 8月1日(月) ユニバーサルスタジオ見学
- 8月2日(火) ロサンゼルス市出発(NW25便)
- 8月3日(水) 茨木市到着



人々の優しさに感動

養精中学校2年 楠本 智子

ミネアポリスへ行けたのは大変良い経験になりました。ミネアポリスは自然が多く、気候も過ごしやすい、とてもきれいな都市でした。でも、一番感動したのは現地の人々の優しさです。

ホームステイやキャンプではたくさんの人と話したけれど、みんなわかりやすく、ゆっくり話してくれ、返事が遅くても私の表情を見て私のしたいことをしてくれました。そういうのに少し甘えてしまってはっきり決断をせず、いろんな人に迷惑をかけてしまいました。

英語が話せなくても顔を見てある程度は気持ちを分かってもらえたり、分かったりできたけれど、知らない言葉が話された時にどう対応すればいいのか分からず首をかしげていると、「もういいわ。」とか「なんでもないよ。」と言われ、その場が暗く静かになってしまい、私も話をしてくれた方も悲しくなっていました。「英語が話せたらこんなことないのに」と悔しく、今度行く時はもっと話せるようになって暗い雰囲気なんか絶対作りたくないと思いました。

ホームステイでは、家族の皆がとても優しく迎えてくれました。「私は日本が好きです。」と、日本の絵やおはし、緑茶等を見せてくれました。そのせいか話しやすく、すごくすごく楽しかったです。本当に優しい人達で感謝しています。

キャンプでは、同年代のアメリカの子どもと話したり、アーチェリーやカヌーを一緒にできてとても楽しかったです。

この交流でとても貴重な経験をし、いろんな思い出やアメリカ人の友達、一緒に行った日本人の友達ができ、後々の生活もとても明るくなった気がします。ミネアポリスに行って本当に良かったです。



U
S
A
杯

で
大
活
躍



コーチとして
参加したUSA杯

茨木市少年サッカーチーム
コーチ 松尾 一

今回で2度目となるミネアポリス訪問は、中学生時代に訪問した時と異なる、大変に貴重な思い出となりました。

大きく異なった点は、引率される側から引率する立場に変わったことです。最初は、子供達の顔と名前が一致せず、なかなかコミュニケーションがとれず、歯がゆい思いをしましたが、練習や現地での生活を重ねていく中、そんなことは全く気

にしなくなっていました。

サッカーの試合では、選手一人ひとりがとても頑張ってくれました。決勝トーナメントで負けた時、数人の子供達が泣いていました。そんな子供達に「サッカー楽しめた?」「また来たい?」と問いかけると、全員が手を挙げて「また来たい!」と言ってくれました。子供達は、日本ではできない経験を『サッカー』のスポーツ交流というカタチでしたのだと思いました。

数年後、この中からコーチとして参加する子供が出てくればと願っています。

茨木FC・茨木キッカーズの夏

平成11年7月10日午後、多くの人に見送られ、茨木市少年サッカーチームは、関西国際空港を出発しました。

12時間後、アメリカ・ミネアポリス国際空港に到着。ロビーで選手たちは、ホームステイ家庭と対面し、挨拶の後、緊張した面持ちでそれぞれのホームステイ家庭へ向かいました。

真夏の太陽が照りつける中で「第15回USA杯国際青少年サッカー大会」の開会式が11日午後、海外チームを含めて671チーム（少年410チーム、少女261チーム）が参加してブレイン市にあるナショナルスポーツセンターで行われました。

茨木市からは中学生の2チーム（茨木FC17人、茨木キッカーズ18人）が参加しました。

アメリカのチームに続いて海外チームの入場があり、選手たちは、スタンドを埋めた満員の観衆から送られた拍手の中、元気良く行進しました。

予選リーグは、12日から14日まで行われました。今大会から参加チームは、カップフライトとトロフィーフライトのどちらかに出場登録することになり、FCはカップフライト、キッカーズはトロフィーフライトに出場しました。

試合をしたアメリカとメキシコの選手とは、体格的に不利な面がありましたが、当り負けせずによく頑張りました。

予選リーグの成績は、FCが1勝1敗1分け（得失点差）でグループ内3位となりAプレイオフ1回戦へ進み、キッカーズが3勝1敗でグループ内2位となりBプレイオフ1回戦へ進出しました。

15日の決勝プレイオフトーナメントでは、2チームとも1回戦で敗退しましたが、1点を争う試合となりました。

キッカーズは1対1で延長戦を終え、PK戦では4対5で敗れ、FCは2対2の後、延長後半に1点を入れられてしまいました。

大会終了後は、18日にロサンゼルスディズニーランドで楽しみ、20日午後、生涯忘れることのない貴重な体験を胸に帰国しました。

（随行職員 植木 義純）



あっという間の1週間

西陵中学校1年 中見 亮太

とうとう出発。飛行機の中では、どんなホームステイ家庭だろうと思っているうちにミネアポリスに着きました。出たところにホストファミリーの人達が待っていました。そして、家族との対面。

車で家に着くと先ずテレビを見ましたが、いつものまにか眠っていました。夕食も食べずに朝を迎え、ゲームをして遊びました。また、夕食が出ませんでした。どうしてだろうと思いながら、3日

目のサッカーの試合は白星スタート。ついに自分から「ハングリー」と言いやっとな夕食にありつきました。4日目、初黒星。次第に家族とも親しくなって、夜は子どもと盛り上がりました。5日目の試合の結果、Aトーナメントに進出が決定。トーナメントは2点リードしていたのに追いつかれ、延長戦前半何度もチャンスを逃し、相手にゴールされ、ジ・エンド—悲劇。終わった後、涙がこぼれました。

その夜、明日家族と別れると思うと悲しく、これほど早く思った1週間は初めてでした。



ミネソタ州日本語村 「森の池」だより



授業の後でくつろぐ学生達と福原さん(後列右)



カウンセラーと広田さん(後列浴衣の男性)

See You Again!

福原 慶尚

ミネソタ州デントにある日本語村は、今年も若者の熱気であふれました。80人を超えるアメリカの中・高校生が“日本”を求めて集まったからです。

1日のスケジュールは、7時の「起床」に始まり、「ラジオ体操」「朝食」「清掃」「職員会議」「クラス」と続き、夜10時の「消灯・就寝」まで多彩な活動でぎっしり。私はCredit Teachers（高校生に単位を認定する指導教員）の一人として派遣されました。

その主な仕事は「職員会議」「クラス」ですが、大変だったのは「クラス」運営。指導案作りから教材準備、授業までの一連の作業は繁忙を極め、同時に日本人教師の知・心・技が問われる緊張の連続でした。また、授業中の彼らの発言・発表の活発だったこと。日本の高校生とはまるで異質的。軍配は彼らに上がります。

異文化葛藤場面にも何度か直面しながら国際親善・異文化理解教育の難しさ、大切さを改めて知らされた35日間でした。キャンプ場で寝食を共にしながら、日本のことアメリカのことを語り合った若者たちの活躍と再会を願ってやみません。

身をもって感じたアメリカ

広田 真一

ラジオ体操、会話クラス、クラブ活動、カラオケ(歌)、その日のテーマにあった夜のプログラム。以上は「森の池」の毎日の主な活動です。これらの活動を通して、子ども達は日本文化と日本語を生活の中から学んで(身に付けて)いきます。

「森の池」は、子ども達が日本という異文化に接する場であると同時に、私にとっては日本の中においてはかなわなかったであろう「アメリカ」を感じ取ることができる場でもありました。

1カ月半の間生活を共にすることで、アメリカの文化や生活様式だけでなく、アメリカ人の考え方や国民性の一端も知ることができたように思います。また、他の言語村との交流もあり非常に国際色豊かなプログラムでした。グローバル化が叫ばれる今日ですが、文化の違いは今後も残っていくと思われま。しかし、互いの文化を尊重しながら共に生活することは、決して難しいことではないと身をもって体験できました。最後に、アメリカに多くの友人ができたこと、これが今回のキャンプで私にとっての最大の収穫だったように思います。



陳団長と選手達



プールで楽しいひととき

安慶市と水泳交流

“水泳を通じて市民交流を”と8月19日から24日まで、安慶市スポーツ友好訪問団が本市を友好訪問しました。

茨木市体育協会の招きで来茨した一行は、安慶市水泳学校の陳 榮芳校長を団長とする中学生の水泳選手男女2人ずつの計5人で、期間中、中学校水泳大会、市民水泳大会に参加し、個人種目やリレーで1位になるなど、すばらしい泳ぎを披露、2つの大会を大いに盛り上げました。

さらに、訪問団は、初めてのホームステイも体験し、本市の中学生や市民と“熱い交流”を繰り広げました。



いっせいのスタート



サンドイッチで昼食

JICA研修員との 楽しい1日

残暑厳しい9月18日（土）、毎年2回実施している恒例のJICA（国際協力事業団）研修員と市民との「ふれあい交流」が開催されました。終始和気あいあいとした雰囲気の良い一日でした。ぜひ、一度ご参加してみてくださいは？

PS：昨年9月に参加されました研修員の方と市民の方が来春2月にご結婚されるそうです。おめでとうございます。末長くお幸せに!!



交流会で踊る人続出?!



ご参加いただいた皆さん

あなたも

We Are Friends!

青少年活動室



クリスマスやハロウィーンなどの季節のイベントを楽しむところ。外国のことをもっとよく知るところ。楽しみながら英語も上達できるところ。あなたの英語を実際に試してみるところ。そこが青少年活動室“WE ARE FRIENDS!”です。

毎月第3日曜日、午後2時～4時、講師の久徳ウェンディーさんと一緒に、身近な外国に触れてみませんか？

英語が苦手という人も大丈夫。スタッフが優しくお手伝いします。参加費は無料。いつからでも参加できます。ぜひ一度気軽に遊びに来て下さい。

今後の予定：12月19日 クリスマスパティー
1月23日 映画鑑賞会
2月20日 英語でクッキング

問 合 せ：事務局 20-1604

身近な国際交流を目ざして!

IIN

私達IIN（茨木市姉妹都市活動室）ではミネアポリス市民との交流を目的に、地域の外国人ゲストを招き文化間の交流に努めています。

さらに、JICA研修員、留学生、近隣の外国の方々との草の根交流を通して、日本文化を理解する手助けとなるような活動を行っています。

今秋10月からは、外国人のための「実用日本語学習会」も開催し好評を得ています。

例 会：毎月第1木曜日 10時～12時
第3土曜日 14時～16時

会 費：正会員 2,000円 準会員 1,500円

問 合 せ：事務局 20-1604



寄 附

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄附をいただきました。ご厚志に心からお礼申し上げます。（4月～10月敬称略）
〈市へ〉6月 国際ゴルフ株式会社（100万円）

● 会 員 募 集 ●

本協会では、姉妹・友好都市交流をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、春と秋に発行する協会報や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉個人会員（一般）2,000円（学生）1,000円
団体・法人会員 5,000円

〈申込先〉協会事務局（市役所南館8階自治振興課国際交流係）

☎20-1604

